

14.21

302a

大正
三年

事蹟報告

第一号



始



大正十四年三月

事蹟報告

第一號

長野縣蠶業試驗場

14.24-302a

本報告ハ大正十一年ヨリ大正十三年ニ至ル三ケ
 年間ニ於ケル事蹟ノ概要ヲ摘録シタルモノナリ

大正十四年三月

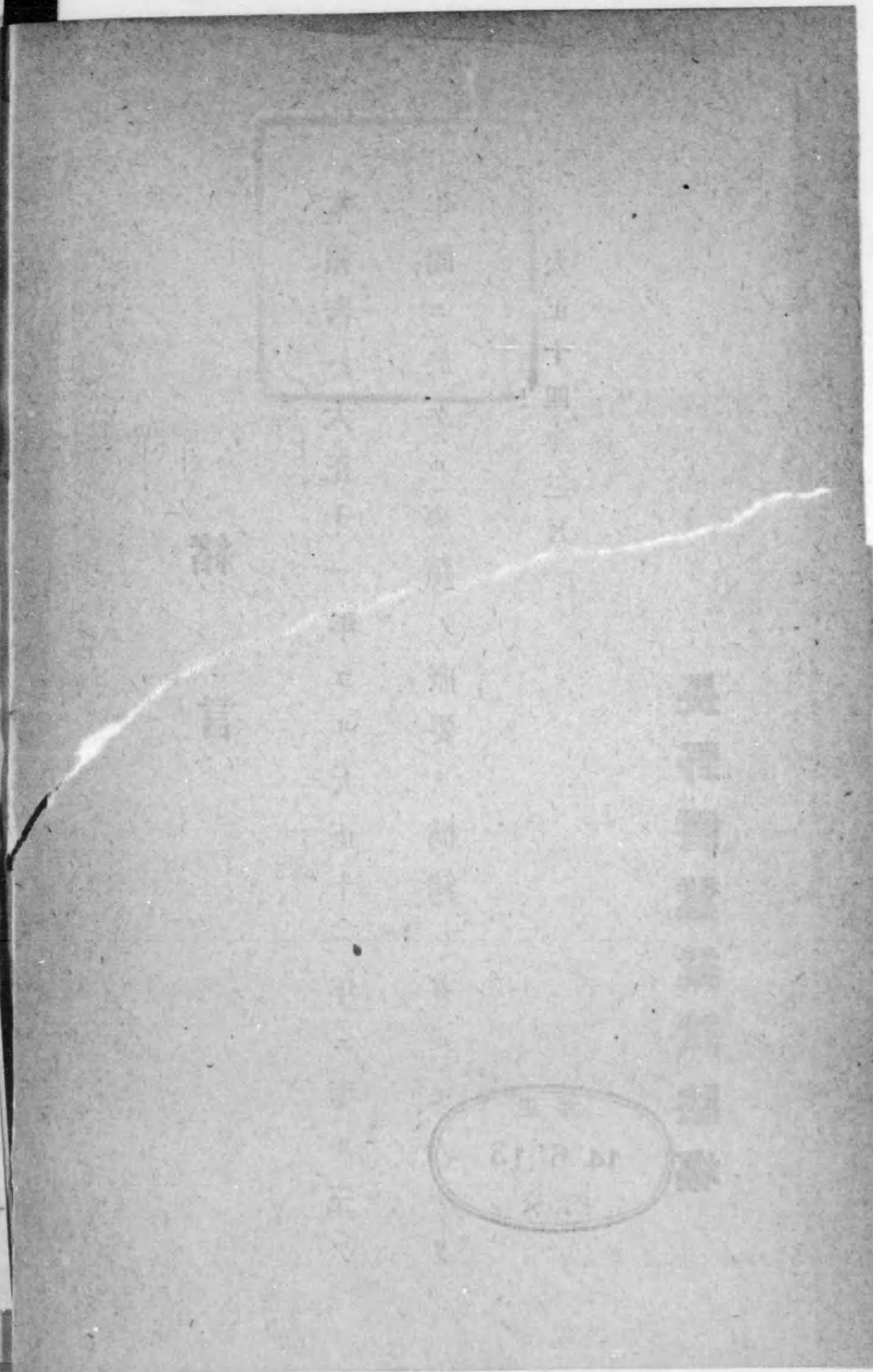
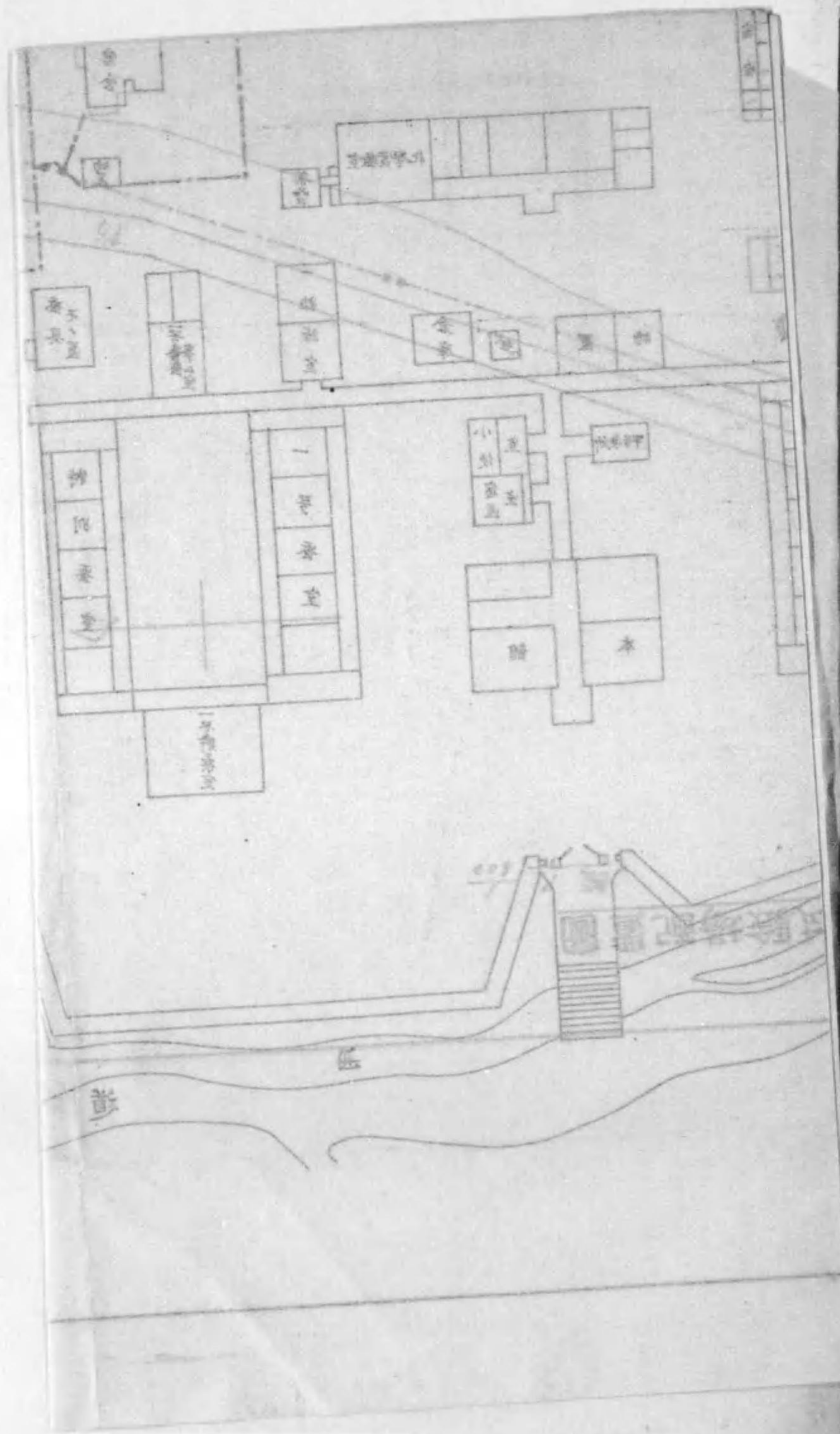
緒言

長野縣蠶業試驗場

大正 14.6.13 内交

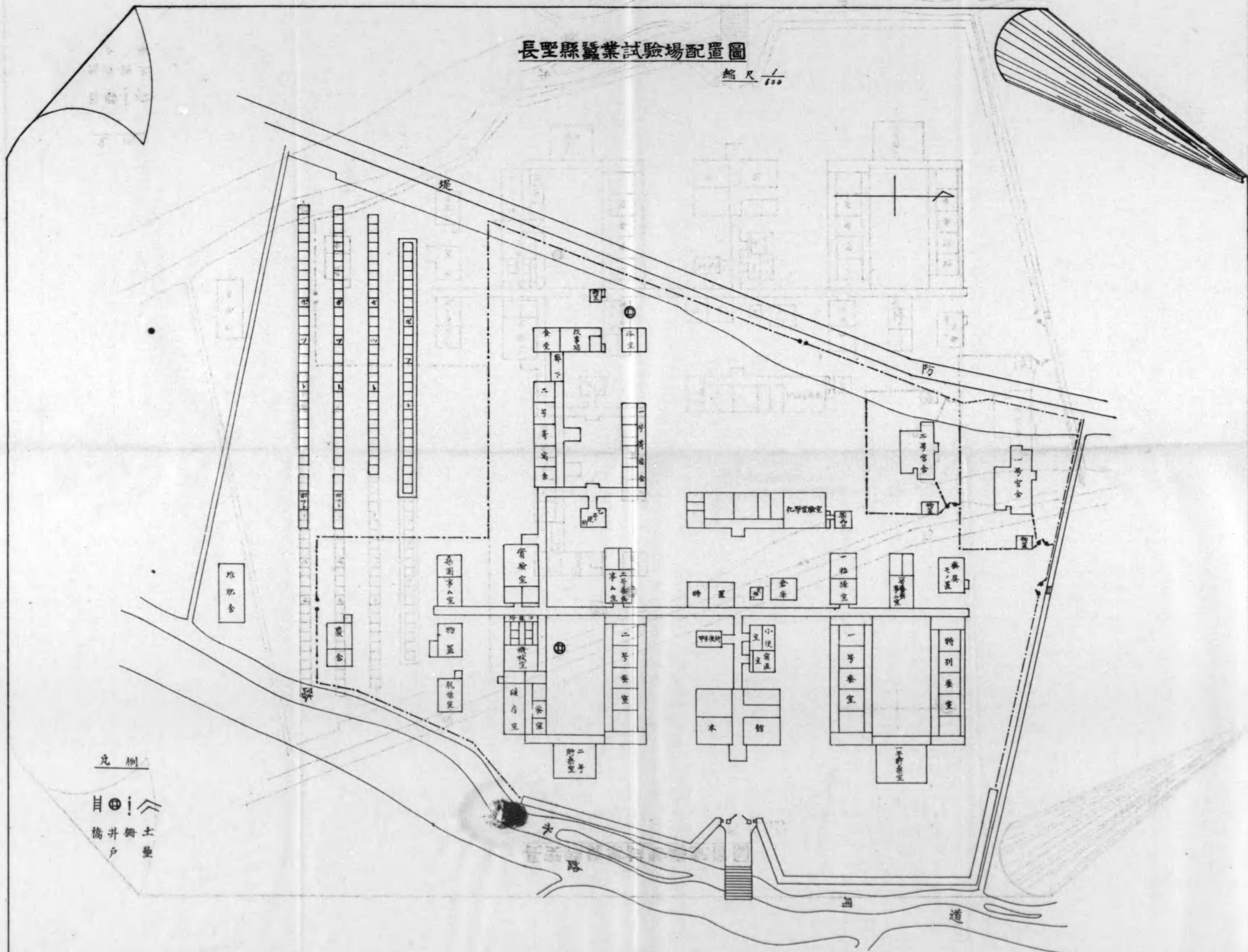
事蹟報告第一號正誤表

頁	行数	誤	正
四	三	二、五	二、二五
一〇	一	下段北佐久	北安曇
一三	五	桑樹栽培	桑樹栽培法
一七	〇	大月	大正
一七	二	三月廿六日	三月十六日
二一	六	蠶視察ノ爲メ	蠶視察ノ爲メ
二四	一	五〇〇	一、〇〇〇
二四	一	四四、一九〇	四四、三三〇
二四	一	八四六、三三〇	八四六、一九〇
二五	一	八〇、五〇〇	七三、三三〇
二五	一	五、九三三、三三〇	五、七五五、七三〇
二九	三	七三、三三〇	八〇、五〇〇
二九	六	五、七五五、七三〇	五、九三三、三三〇
二九	〇	支場長ノ下「若干名」ヲ	一名
三〇	〇	支場長ハ	「三名」ニ
三〇	三	關スル	支場長ハ
三〇	三	毎年度事業	關シ
三三	一	蠶種製造者	毎年度事業
三三	一	調査	蠶種製造者
三三	二	蠶品種ノ品名	調査
四二	二	取締支所	蠶品種ノ品名
四三	三	指定品種	取締支所
四三	一	副會長ハ之ヲ	指定品種
四四	一	指定蠶種製造	副會長ハ會長ヲ
四六	一	二號式	指定蠶種製造用
四六	一	二號中	



長聖縣蠶業試驗場配置圖

縮尺 1/100

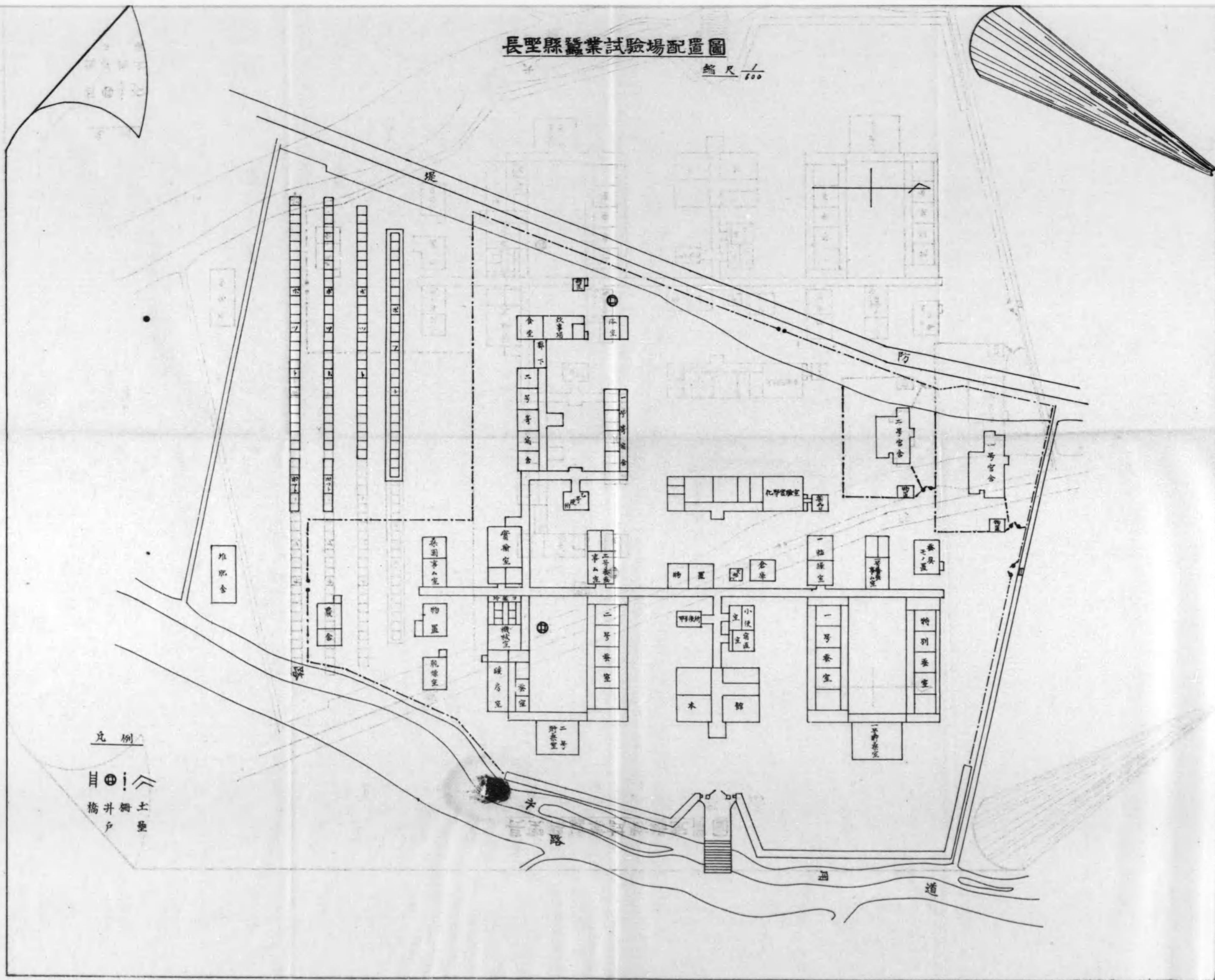


凡例
目 ⊕ ! <
橋 井 土壘
戶 壘

6 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

長聖縣蠶業試驗場配置圖

縮尺 1/100

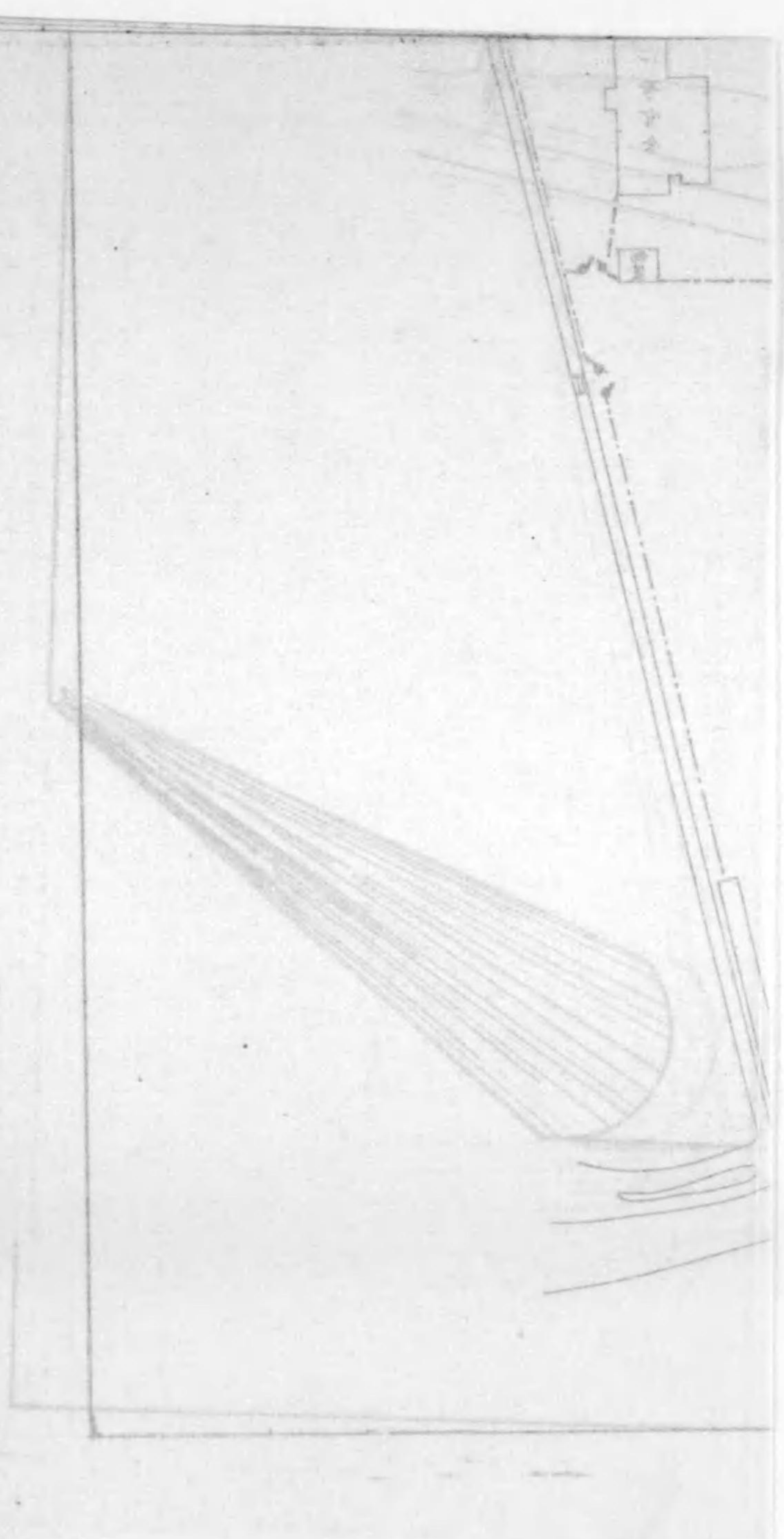


凡例

- 目 ⊕ !
- 橋 井 土壘
- 戶

事蹟報告目次

第一	沿革	一
第二	設備	二
	イ、土地	二
	ロ、建物	三
第三	試験及調査	七
第四	講習	一〇
第五	雑件	一四
	イ、職員	一四
	ロ、講習講話	一八
	ハ、職員ノ出張	一九
	ニ、來觀者	二二
	ホ、文書ノ往復	二三



へ、刊 行 物……………二二三

ト、豫 算……………二二四

第六 諸 規 則……………二二八

イ、長野縣蠶業試驗場規則……………二二八

ロ、長野縣蠶業試驗場 處務規程……………三三〇

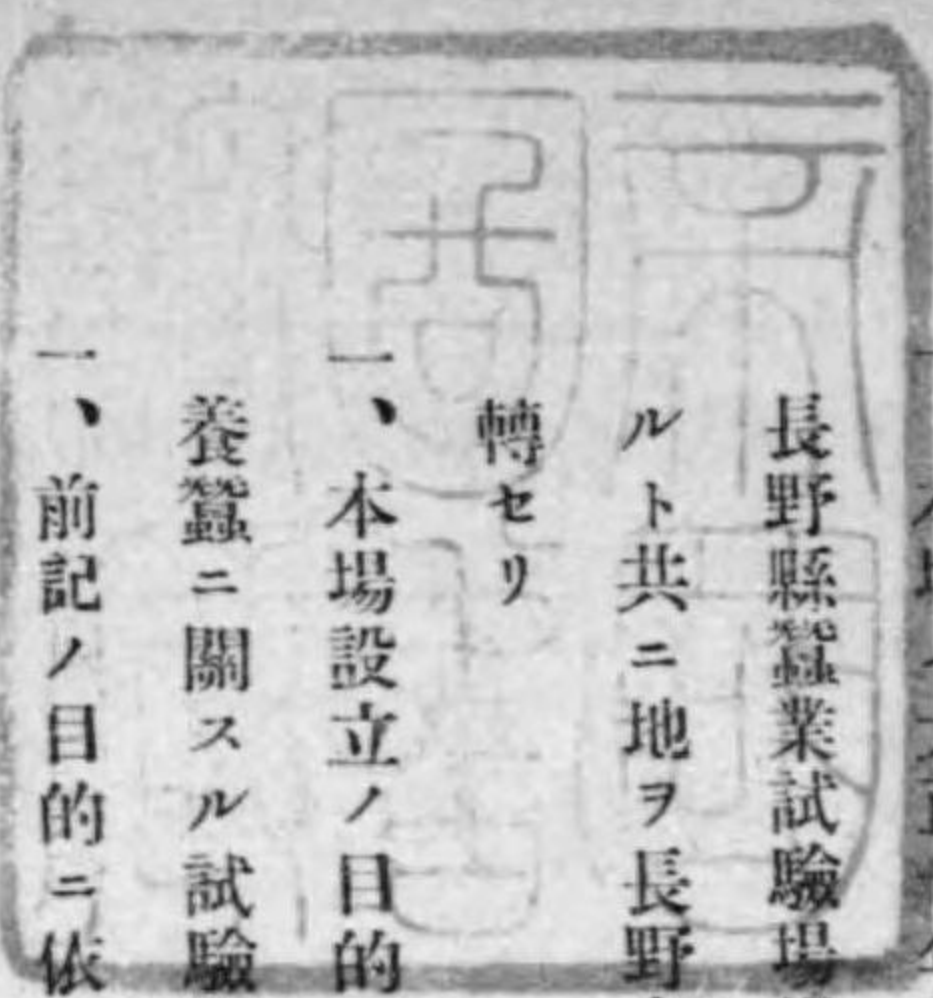
ハ、長野縣蠶業試驗場 講習規程……………三三三

ニ、長野縣 指定蠶品種ニ關スル規程……………四一

ホ、蠶品種 審査會旅費支給規程……………四七

事 蹟 報 告

第一 沿 革



一、本場ハ大正十年通常縣會ニ於テ之レガ設立ヲ議決シ大正十一年三月三十一日縣告示第百六十四號ヲ以テ長野縣蠶業試驗場規則ヲ告示セラレ、全年四月一日ヨリ仮事務所ヲ長野縣廳蠶絲課内ニ置キ事業ヲ開始スルト共ニ地ヲ長野市大字中御所ニ相シテ工事ニ着手シ大正十二年四月建築物ノ一部竣工セルヲ以テ茲ニ移轉セリ

一、本場設立ノ目的ハ蠶品種ニ關スル試驗調査ヲ行ヒ以テ本縣ノ實狀ニ適應セル蠶品種ヲ選出シ併セテ栽桑養蠶ニ關スル試驗調査ヲ行ヒ斯業ノ改良發達ヲ圖ラムトスルニ在リ。

一、前記ノ目的ニ依リ從來農事試驗場ニ於テ施行シツ、アリシ桑樹ニ關スル試驗並ニ上田、松本、飯田ノ各原蠶種製造所ニ於テ施行シツ、アリシ各種ノ試驗ハ本場ニ於テ之レヲ統一施行スルコト、ナリタリ。

一、大正十二年二月十六日縣告示第百三十六號ヲ以テ本場ノ規則改正セラレ試驗調査以外ニ蠶業ニ關スル講習話ヲ行フコトナリタリ。

一、大正十三年三月十二日縣告示第百五十號ヲ以テ本場講習規程告示セラレ大正十三年四月ヨリ高等小學校

卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年以上ノ實業學校卒業者ヲ入場セシメ蠶業ニ關スル講習ヲ開始セリ

一、本場ノ建築物並ニ設備ハ大正十一年度ヨリ之レニ着手シ大正十三年度ヲ以テ其ノ第一期計畫ヲ完成セリ

一、大正十三年通常縣會ニ於テ化學室ノ新設ト桑樹品種試驗トニ關スル經費ヲ議決セラレタリ

第二設 備

イ、土 地

面 積 七町八畝貳拾步

敷 地 壹町八反參畝五步

市村桑園 貳町壹反參畝貳拾九步

構内桑園 貳町貳反八畝貳拾四步

構外桑園 壹町貳反貳畝貳拾貳步

備考 桑園ハ全部借地ニシテ其總反別ハ六町六反五畝拾五步ナリ

項 別	項 目	坪 數	長	幅	構 造	備 考
休息所及物置		一二、五	五、〇	二、五	平家	大正十一年十月二十三日 農事試驗場ヨリ移管
附屬下屋		五、〇	二、五	二、〇	同	同
便 所		〇、五	一、〇	〇、五	平家	同
肥料小屋		一五、〇	五、〇	三、〇	平家	同
本 館		六五、〇	一〇、〇	六、五	二階建	大正十二年六月竣工
附屬玄關		三、〇	二、〇	一、五	平家	同
蠶 室		七五、〇	一五、〇	五、〇	二階建	同
同		七五、〇	一五、〇	五、〇	同	同
宿直室小使室		一六、五	五、五	三、〇	平家	同
便 所		六、〇	三、〇	二、〇	同	同
便 所		六、〇	三、〇	二、〇	同	同
渡ッ廊下		一、五	一、五	一、〇	同	同

種別	項目	坪數	長	幅	構造	備考
養蠶事務室	養蠶事務室	一九、五	六、五	三、〇	平家	大正十二年六月竣工
火起場	火起場	二二、五	一、五	一、五	同	同
溶室	溶室	九、〇	三、〇	三、〇	同	同
寄宿舎	寄宿舎	三〇、〇	一、〇	三、〇	同	同
貯桑室	貯桑室	二七、〇	六、〇	四、五	地下室付	同
井戸	井戸	一ヶ所				大正十二年七月竣工
附屬住宅	附屬住宅	二九、四			平家	大正十二年九月竣工
農舎外	農舎外	一二、五	五、〇	二、五	同	同
便所	便所	二一、〇	七、〇	三、〇	同	同
堆肥舎	堆肥舎	一二、〇	四、〇	三、〇	帶川乾燥裝置	同
乾燥室	乾燥室	二四、五	八、〇	三、〇	平家	大正十二年十一月竣工
食堂炊事場	食堂炊事場	三、五	二、〇	一、五	同	同
外ニ押入	外ニ押入					
附屬物置	附屬物置					
外ニ便所	外ニ便所					

種別	項目	坪數	長	幅	構造	備考
一粒繰室	一粒繰室	一八、〇	六、〇	三、〇	平屋	大正十二年十一月竣工
物置	物置	一六、五	五、五	三、〇	同	大正十二年十二月竣工
桑園事務室	桑園事務室	一八、〇	六、〇	三、〇	同	同
養蠶事務室	養蠶事務室	一九、五	六、五	三、〇	同	大正十三年六月竣工
貯桑室渡リ	貯桑室渡リ	二九、五	五、〇	五、〇	地下室付	同
廊下四坪五合	廊下四坪五合	一ヶ所				同
井戸	井戸	一ヶ所				大正十三年八月竣工
特別蠶室	特別蠶室	六〇、〇	一五、〇	四、〇	二階建	同
生理蠶室	生理蠶室	三〇、〇	六、〇	五、〇	鐵筋プロック平家	同
冷藏室	冷藏室	一七、五	五、〇	三、五	同	同
機械室	機械室	二二、五	五、〇	四、五	平家	同
合計	合計	七〇三、一七				

目下建築中ニ係ル建物左ノ如シ

種別/項目	坪數	長	幅	構造	備考
實驗室	二八、〇	七、〇	四、〇	平家	
附屬廊下	一〇、〇	一、〇	一、〇		
寄宿舍	四三、七五	一二、五	三、五	二階建	
同 階段室	三、〇	二、〇	一、〇	同	
倉 庫	七、五	三、〇	二、五	鐵筋コンクリート	
附屬住宅	二四、三三			平家	
正 門	一ヶ所			鐵筋コンクリート	
渡り廊下	一一、二五				
附屬便所五合置	一二、五	四、〇	三、〇	平家	
附屬下屋二坪置	一四、〇	四、〇	三、〇	同	
計	二五五、五八				

六

第三 試驗及調査

大正十一年度

- 一、蠶品種依託試驗
- 二、桑樹品種比較試驗
- 三、桑樹肥料試驗
- 四、桑樹仕立法試驗
- 五、桑樹採葉法試驗
- 六、寄畦間作試驗
- 七、桑樹肥料依託試驗

大正十二年度

蠶ニ關スル試驗調査

- 一、原蠶種比較試驗
- 二、品種比較試驗
- 三、品種改良ニ關スル試驗

七

四、蠶品種依託試驗

桑ニ關スル試驗調査

- 一、品種比較試驗
- 二、肥料試驗
- 三、仕立法試驗
- 四、採葉法試驗
- 五、寄畦間作試驗
- 六、桑樹肥料依託試驗

大正十三年度

蠶品種ニ關スル試驗調査

- 一、原蠶種比較試驗
 - 二、品種比較試驗
 - 三、品種改良ニ關スル試驗
 - 四、蠶品種依託試驗
- 蠶ノ生理ニ關スル試驗

一、現代ノ營養ト次代トノ關係試驗

- 二、酵素ニ關スル試驗
- 三、蠶ト溫度トノ關係試驗
- 四、人工孵化ニ關スル試驗
- 五、飼育法改良ニ關スル試驗
- 六、上簇法改良ニ關スル試驗

桑ニ關スル試驗調査

- 一、品種比較試驗
- 二、肥料試驗
- 三、仕立法試驗
- 四、採葉法試驗
- 五、間作試驗
- 六、桑樹肥料依託試驗
- 七、氣象ノ桑樹發育ニ及ボス影響試驗
- 八、萎縮病ニ關スル試驗

九、採苗法試驗

第四講 習

大正十三年度講習

本年度ニ於ケル講習部ノ概況次ノ如シ

イ、第一回入場志願者及入場者

志願者ハ八十一名ニシテ、大正十三年三月廿四日規定ノ學科試驗、同二十五日口頭試問及人物考查試驗ノ結果廿一名ニ對シ三月廿九日入場ヲ許可シ四月八日ヨリ入場セシメタリ。其ノ詳細左表ノ如シ

其一、郡市別志願者並入場者

郡市別	志願者	入場者	郡市別	志願者	入場者
南佐久	四	一	南安曇	三	一
北佐久	三	一	北佐久	二	二
小縣	一〇	二	諏訪	二	一
上水内	一二	二	上伊那	六	一
下水内	一	一	下伊那	八	三

上高井	三	二	埴科	五	一
下高井	二	一	更級	九	一
東筑摩	七	二	長野	二	一
西筑摩	一	一	上田	一	一
計	八一	二二			

其二講習生住所氏名

上高井郡小布施村	市川周一	南佐久郡切原村	井出達雄
上水内郡安茂里村	石坂義高	小縣郡和村	富岡 續
南安曇郡濫村	千國清之輔	下伊那郡下川路村	田端 齊
上水内郡七二會村	瀧澤壽親	東筑摩郡東川手村	瀧澤英男
長野市大字太田	高山金之輔	上伊那郡飯嶋村	中村博司
下高井郡日野村	中山明雄	東筑摩郡壽村	草間壽一
南安曇郡南小谷村	山田慶一	北安曇郡會染村	松田順次
下伊那郡下川路村	福島森藏	下水内郡豊井村	小林俊夫
北佐久郡川邊村	小林 豊	更級郡上山田村	宮原定夫

上高井郡高甫村 關野文夫 小縣郡浦里村 關健吉郎
 下伊那郡鼎村 鈴木鷺男

ロ、學科擔任講師

蠶絲化學 場長技師農學博士井上柳梧 養蠶法 技師 水井壽一郎
 養蠶法 技師 長瀬光發 遺傳學 技師 松村季美
 桑樹栽培法 技師 鶴田定平 蠶種論 技師 酒井文三郎
 蠶體病理學 技師 金崎真英 蠶體生理學 技師 大池彰
 蠶體解剖學 技師 柳田頼母
 顯微鏡使用法 技師 柳田頼母

囑託講師

修身 長野縣長野中學校長若槻道隆 製絲法 技師 宗像宗吉
 蠶絲業法規 技師 太田兵太郎 蠶業經營 技師 佐藤壯太
 蠶種、繭、桑各種審査法 技師 長南稔

ハ、學科授業時間數

學科目	時間數	學科目	時間數
蠶絲化學	四〇	蠶體解剖學	一五
養蠶法	五三	顯微鏡使用法	一五
遺傳學	四四	修身	三六
桑樹栽培	五〇	製絲法	一八
蠶種論	四四	蠶絲業法規	一八
蠶體病理學	三八	蠶業經營及各種審査法	一五
蠶體生理學	四七		

二、修了生住所氏名

入場者前記二十一名中關健吉郎病氣ノ爲メ、二月十日退場シタル結果處定ノ講習ヲ終了シ、大正十四年三月卅日終了證書ヲ授與シタル者二十名ニシテ、其住所氏名次ノ如シ

住所	氏名	住所	氏名
上高井郡小布施村	市川周一	南佐久郡切原村	井出達雄
上水内郡安茂里村	石坂義高	小縣郡和村	富岡續
南安曇郡温村	千國清之輔	下伊那郡下川路村	田端齊

任命月日	官職	氏名
大正十一年十月廿五日	場長技師	井上柳梧
大正十一年四月一日	技師	水井壽一郎
大正十二年六月十二日	同	松村季美
大正十二年二月廿八日	同	長瀬光發
大正十三年四月廿三日	同	鶴田定平
大正十三年三月二十日	技手	酒井文三郎
大正十三年五月二日	技手	金崎眞英
大正十二年七月二日	同	大池彰
大正十三年二月五日	同	柳田頼母
大正十一年十一月三十日	主事	鷹野義忠
大正十二年四月一日	助手	小林信義
大正十三年四月一日	同	花房昌

第五雜件

種別	員數	種別	員數
町村技術員	四	東筑摩郡東川手村	瀧澤英男
蠶業取締所	二	上伊那郡飯島村	中村博司
		東筑摩郡壽村	草間壽一
		北安曇郡會染村	松田順次
		下水内郡豊井村	小林俊夫
		更級郡上山田村	宮原定夫
		下伊那郡鼎村	鈴木鷲男
上水内郡七二會村	瀧澤壽親		
長野市大字太田	高山金之輔		
下高井郡日野村	中山明雄		
北安曇郡南小谷村	山田慶一		
下伊那郡下川路村	福島森藏		
北佐久郡川邊村	小林豊		
上高井郡高甫村	關野文夫		
*、修了生就職狀況			

現在職員

大正十三年四月八日	同	友野忠七
大正十二年七月五日	同	村越文子
大正十二年二月廿八日	同	金井正文
大正十四年二月十三日	同	中村春松
大正十二年十一月十五日	工手	須田桂三
大正十四年三月卅一日	同	鈴木常
大正十三年八月六日	同	柄澤武雄
大正十三年四月一日	事務	鈴木たまた子
大正十一年四月一日	兼技師	伊藤義一
大正十一年四月一日	同	宗像宗吉
大正十一年四月一日	同	太田兵太郎
大正十三年三月三十一日	兼技師	篠原善次
大正十二年十二月廿六日	同	岸勝彌
大正十三年五月五日	囑託講師	若槻道隆

大正十四年一月六日
囑託醫師
鎌原重正

大正十一年四月一日	轉免	場長事務取扱理事官	氏名	萬富次郎
同	同	兼技師		田中直義
同	同	同		岩坪時藏
同	同	同		平石宇三郎
同	同	同		中島隆人
同	同	同		佐藤壯太
大正十二年十一月十日	同	同		篠原善次
大月十一年十一月三十日	同	同		松原弘一
大正十一年四月一日	同	兼主事補		和田定治
大正十一年四月一日	同	兼主事補		

ロ、講習講話

本場職員ヲ派遣セル蠶業講習講話ハ左ノ如シ

郡市別	年度別	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度
南佐久郡		1		3
北佐久郡		1		1
小縣郡		1		2
諏訪郡		1		1
上伊那郡		1		4
下伊那郡		1		3
西筑摩郡		1		1
東筑摩郡		1		4
南安曇郡		1		1
北安曇郡		1		1
更級郡		1		6
計		11	6	26

ハ、職員ノ出張

本場職員ノ御用別出張回数左ノ如シ

大正十一年度

地方別	用件	回数	地方別	用件	回数
埴科郡		3	上高井郡		4
上高井郡		1	下高井郡		2
下高井郡		1	上水内郡		4
上水内郡		1	下水内郡		2
下水内郡		1	長野市		1
長野市		1	松本市		1
松本市		1	上田市		3
上田市		6	計		25

管內	蠶業事務ノ爲メ	四	管外	蠶業視察ノ爲メ	三九
同	事務打合ノ爲メ	一一	同	冷藏及煖房設備取調ノ爲メ	一一
同	技術員會議臨席ノ爲メ	二	同	計	二
同	桑園視察ノ爲メ	四	同		
同	場務ノ爲メ	一七	同		
計		一七	計		二

大正十二年度

管內	蠶況視察ノ爲メ	一六	管外	蠶業調查ノ爲メ	一
同	蠶業事務ノ爲メ	七四	同	技術官會議出席ノ爲メ	一
同	事務打合ノ爲メ	三	同	桑園事務ノ爲メ	一
同	桑園視察ノ爲メ	一	同	講習會聽講ノ爲メ	一
同	蠶業試驗場長會議出席ノ爲メ	一	同	懇談會出席ノ爲メ	一
同	技術員會議出席ノ爲メ	一	同	場務ノ爲メ	一
計		一六	計		六

管外	煖房並冷藏裝置取調ノ爲メ	一七三	管外	蠶業調查ノ爲メ	三
同	蠶室設備取調ノ爲メ	一	同	技術官會議出席ノ爲メ	一
計		一七三	計		六

大正十三年度

管內	蠶視察ノ爲メ	一五	管外	蠶種冷藏ニ關スル調査ノ爲メ	一
同	蠶業事務ノ爲メ	一〇〇	同	事務打合ノ爲メ	一
同	事務打合ノ爲メ	三	同	桑樹栽培法取調ノ爲メ	一
同	審査會事務ノ爲メ	一	同	酸素孵化法調査ノ爲メ	一
同	場務ノ爲メ	六一	同	本縣指定品種ニ付打合ノ爲メ	一
計		一八〇	同	蠶業技術官會議出席ノ爲メ	一
同	桑品種基礎試驗設計調査ノ爲メ	一	同	蠶業講習會出席ノ爲メ	一
同	蠶品種取調ノ爲メ	一	同	蠶休解剖講習ノ爲メ	一
計		一	計		一

管外	修學旅行監督ノ爲メ
計	一一一

二、來 觀 者

本場ヲ參觀セラレタルモノ左ノ如シ

種別	年度		
	縣内	縣外	
計	大正十一年	大正十二年	大正十三年
	四〇〇人	一、一六九人	三、三一四人
	一〇〇	四三〇	五八四
	五〇	一、五九九	三、八九八

ホ、文書ノ往復

種別	年度	收受件數
	大正十一年	九一件
	大正十二年	五四一件
	大正十三年	五九五件

ハ、刊 行 物

種別	年度		發送件數
	種別	年度	
臨時報告第一號	大正十一年	五〇〇部	九六
日歐一代雜種成績	大正十一年	三〇〇部	
桑樹試驗地一覽	大正十一年	五〇〇部	一八七
臨時報告第二號	大正十一年	三二二部	
臨時報告第三號	大正十二年	一六九部	一九八
臨時報告第四號	大正十二年	八〇〇部	
試驗成績要項	大正十二年	五〇〇部	七三九
蠶業講習要項	大正十二年	八八〇部	
臨時報告第五號	大正十三年	二、〇〇〇部	二八六
	大正十三年	二五〇部	

常農夫給	三九四〇〇〇	七八九〇〇〇
小使給	三一八〇〇	三三三〇〇〇
諸雇給	八、二二五八〇	九、四五〇〇一〇
旅費	二、四八二四六〇	三、六二〇〇〇〇
講師手當	—	六〇〇〇〇〇
醫師手當	—	五〇〇〇〇〇
舍監手當	—	六〇〇〇〇〇
實習手當	—	一、二二一九九〇
賞與	—	—
場費	一〇、一四〇二五〇	三三、六八二八二〇
備品費	—	五、三〇九〇〇〇
消耗品費	一、三五九九七〇	六、二一一二〇〇
通信運搬費	三三八三二〇	四〇〇〇〇〇
印刷製本費	七四九五八〇	一、八六八〇〇〇

圖書標本費	—	四九三五三〇	七〇〇〇〇〇
種苗費	九五九九〇〇	二三八〇九〇	二四〇〇〇〇
肥料代	一、八四九八四〇	一、二五〇三一〇	一、五二二〇〇〇
賄料	—	九八〇〇〇	五九二六二〇
依託試驗費	二、六四九七六〇	一三、三三九九〇〇	一〇、〇六七〇〇〇
電話使用料	—	一一三四九〇	一二二〇〇〇
借地料	二、〇九三七七〇	三、六一一四九〇	四、四一七〇〇〇
電力料	—	—	一、二二〇〇〇〇
修繕費	—	三六四九九〇	七〇六〇〇〇
雜費	一三九一〇〇	二八〇〇九〇	三〇八〇〇〇

臨時部建築費	一一〇、七二二〇〇〇	八一、七四七〇〇〇	四一、〇〇〇〇〇〇
--------	------------	-----------	-----------

附記、經常部豫算中大正十一、十二ノ兩年度ハ決算額ニヨリ大正十三年度ハ決算豫定額ヲ掲ク大正十二、十三、兩年度豫算中賞與額ヲ掲ケザルハ豫算ノ令達ナキニヨリ省ク

第六 諸 規 則

イ、長野縣蠶業試驗場規則

第一條 長野縣蠶業試驗場ヲ上水内郡芹田村ニ設置ス

第二條 蠶業試驗場ニ於テ行フ業務左ノ如シ

- 一、原蠶種ノ製造及配付
- 二、蠶業ニ關スル試驗及調査
- 三、講習、講話、實地指導及質問應答
- 四、其ノ他必要ト認ムル事項

第三條 蠶業試驗場ニ左ノ支場ヲ設置ス

支場ノ名稱、支場ノ位置、管轄區域

長野縣蠶業試驗場 上田支場 上田市

(南佐久、北佐久、小縣、更級、埴科、上高井、下高井、上水内、下水内、長野市、上田市)

同 松本支場 松本市

(諏訪、上伊那、西筑摩、東筑摩、南安曇、北安曇、松本市)

同 飯田支場 下伊那郡 村

(下伊那)

本場支場ニ於ケル業務ノ分擔左ノ如シ

一、本場ニ於テハ前條第二號以下各號ノ事項

二、支場ニ於テハ前條各號ノ事項但シ第二號ノ事項ニ就テハ本場ノ指揮ヲ受ケ其ノ區域内ニ於ケル業

務ヲ分掌ス

第四條 蠶業試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク

場 長	長
支 場 長	若干名
産 業 技 師	若干名
産 業 技 手	若干名
産 業 主 事 補	若干名

場長及支場ハ産業技師ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 場長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ場務ヲ掌理ス

第六條 支場長ハ知事又ハ場長ノ指揮監督ヲ承ケ支場ニ於ケル所管事務ヲ掌理ス

第七條 産業技師及産業技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス

第八條 産業主事補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附 則

大正八年二月告示第七十七號長野縣原蠶種製造所規則ハ之ヲ廢止ス

三〇

ロ、長野縣蠶業試驗場處務規程

- 第一條 場長又ハ支場長ハ左ノ事項ニ關スル意見ヲ知事ニ具申スルコトヲ得
- 一、職員ノ進退賞罰ニ關スル件
 - 二、職員ノ縣外出張ニ關スル件
- 第二條 場長又ハ支場長ハ左ノ事項ニ關シテハ之ヲ專決施行スルコトヲ得
- 一、助手以下雇傭人ノ任免賞罰ニ關スル件
 - 二、職員ノ縣内出張ニ關スル件
 - 三、職員ノ墓參、歸省、轉地療養、休暇、旅行ニ關スル件
 - 四、職員ノ場所在地外居住ニ關スル件
 - 五、職員ノ忌服ニ關スル件
 - 六、文書ヲ他人ニ閱覽セシメ又ハ其ノ謄本ヲ與フル件
- 第三條 場長ハ每年事業施行ノ方法ヲ四月末日迄ニ其ノ事務行程ハ翌年五月二十日迄ニ知事ニ報告スヘシ但事務行程報告ニハ別記様式ノ原蠶種配付ニ關スル成績表ヲ添付スヘシ

第四條 場長又ハ支場長事故アル時ハ上席職員其ノ職務ヲ代理ス

第五條 場長又ハ支場長縣内ニ出張セムトスル時ハ豫メ其ノ用務地及豫定日數ヲ知事ニ報告シ且ツ出張豫定簿ニ記載シ置クヘシ

第六條 職員出張シタル時ハ歸場後三日間以内ニ本場ニ在リテハ場長ニ支場ニ在リテハ支場長ニ復命スヘシ前項ノ復命ニシテ特ニ參考トナルヘキ事項ニ就テハ支場長ハ場長ニ場長ハ知事ニ報告スヘシ

第七條 職員出勤シタル時ハ自ら出勤簿ニ捺印スヘシ若シ疾病其ノ他事故ノ爲缺勤又ハ遲參スル時ハ出勤時限迄ニ其ノ旨ヲ本場ニ在リテハ場長ニ支場ニアリテハ支場長ニ届出スヘシ

第八條 疾病ノ爲缺勤七日以上ニ渉ル時ハ醫師ノ診斷書ヲ添へ届出テ爾後七日毎ニ其ノ病狀ヲ届出ヅヘシ

第九條 職員ハ交替ニ當宿直シ場内ノ取締ヲ爲スヘシ

第十條 場長ハ知事ノ認可ヲ受ケ處務細則又ハ事業施行ニ關スル必要ナル規程ヲ設クル事ヲ得

附 則

明治四十五年五月訓令第三十六號原蠶種製造所處務規程ハ之ヲ廢止ス

様式 原蠶種製造配付ニ關スル成績表

第一號 原蠶種製造

三一

蠶品種	化性	繭色	系統	種繭ノ種類		原蠶種製造額	
				生産額	買收額	有毒	無毒
計							

第二號 原蠶種配付

蠶ノ品種名	化性	配付シタル原蠶種ノ數量		原蠶種製造額		配付額ニ對スル	
		製造シタルモノ	買收シタルモノ	原蠶種製造額	配付額	配付額ノ割合	計
計							

備考 一、本表ハ春蠶及夏蠶秋蠶別ニ調査スル事
 二、交雜蠶種製造用ノ目的ヲ以テ配付シタルモノアル時ハ其ノ組合セ品種名ト配付數量トヲ別表

ニ記載シ添附スル事

ハ、長野縣蠶業試驗場講習規程

第一條 長野縣蠶業試驗場ニ於テ蠶業ニ關スル學理及技術ヲ修得セシムル爲本規定ノ定ムル所ニ依リ講習ヲ行フ

第二條 講習期間及講習生定員左ノ如シ

- 一、講習期間 自四月一日 至翌年三月三十一日
- 二、講習生定員 三十名

第三條 講習科目左ノ如シ

- 一、學科目
 - 修身 蠶絲業經營 蠶絲化學 遺傳學 蠶體生理解剖 蠶體病理
 - 養蠶法 蠶種論 桑樹栽培法 製絲法 蠶絲業法規
- 二、實習課目
 - 蠶兒飼育 蠶種製造 蠶體解剖 顯微鏡使用 桑樹栽培

殺師 乾 繭 桑、蠶種、繭、審査

場長必要ト認ムルトキハ前項科目ノ一部ヲ變更スルコトヲ得

第四條 入場志願者ハ男子ニシテ左ノ要件ヲ具フルヲ要ス

- 一、高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年以上ノ實業學校若ハ之ト同一程度ノ實業學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スト認ムル者
- 二、身體健全品行方正ナルモノ

第五條 入場志願者ハ様式第一號ニ依ル願書ニ様式第二號ニ依ル履歷書ヲ添ヘ毎年三月十五日迄ニ場長ニ差出スヘシ

第六條 志願者ニ對シテハ選抜試驗並人物考查ヲ行ヒ入場者ヲ定ム

前項選抜試驗ノ科目ハ物理、化學、數學及國語トス

第七條 休業日左ノ如シ

- 一、祭日及祝日
- 二、日 曜 日
- 三、夏季 休業 春蠶、夏蠶及秋蠶實習修了後各十日間以内
- 四、冬季 休業 自十二月二十一日至翌年一月十日

蠶兒飼育及蠶種製造ニ關スル實習期間中ハ祭日、祝日及日曜日ト雖休業セサルコトアルヘシ

第八條 講習生ハ指定ノ宿舍ニ寄宿スヘシ但シ己ムヲ得サル事由ニ依リ寄宿スルコト能ハサル者ハ場長ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 講習生ニ對シテハ授業料ヲ徵收セス

第十條 講習生實習ヲ爲シタルトキハ實習手當ヲ支給ス

第十一條 講習生ニ對シテハ講習ノ末期ニ於テ試験ヲ行ヒ合格シタル者ニハ様式第三號ノ修了證書ヲ授與ス
前項ノ外必要ト認メタルトキハ臨時試験ヲ行フ

第十二條 講習生退場セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ場長ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條 講習生左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ退場ヲ命ス

- 一、成業ノ見込ナキ者
- 二、素行修マラサル者
- 三、出席常ナラサル者

附 則

本規程ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

様式第一號

願 書

私儀貴場講習部ニ入場致シ度候間御許可相成度別紙履歷書相添へ此段奉願候也

年 月 日

本籍
現住所
籍

氏
戸主トノ續柄

生年 月 日
名 團

長野縣蠶業試験場長 氏 名 殿

様式第二號

履 歷

書籍
本籍
現住所
族籍

戸主トノ續柄

氏 名
生年 月 日

學 業 及 職 業

- 一、何年何月何々尋常小學校ニ入學何年何月何々學校卒業
- 一、何年何月何學校入學何年何月何々學校卒業又ハ修業
- 一、何年何月ヨリ何月迄何處ニ於テ何業ニ従事

賞 罰

- 一、何々々

右之通り相違無之候也

年 月 日

右

氏 名 團

様式第三號

修 了 證 書

氏 名

生年 月 日

右者本場講習ノ科程ヲ修了セリ仍テ之ヲ證ス

年 月 日 長野縣蠶業試驗場長 氏

三八
名 團

第 號

講 習 生 心 得

第一條 生徒ハ講習規程ヲ遵守シ且ツ職員ノ指揮ニ從ヒ生徒タルノ本分ヲ守ルヘシ

第二條 生徒ハ至誠ヲ以テ事ニ當リ質素勤勉ヲ旨トシ互ニ禮讓ヲ厚フシ身体ノ健康ヲ計リ志操ヲ固クシ言行ヲ慎ムヘシ

第三條 生徒ハ左記各號ヲ遵守ス可シ

- 一、始業時限ニハ遲滞ナク教室ニ入り所定ノ席ニ着キ授業終ル時ハ講師退席後靜カニ退出ス可シ
- 一、授業時間中ハ講師ノ許可ナクシテ教室ニ出入スルコトヲ得ス
- 一、場内ニアリテハ事業中ハ勿論其ノ他ノ時ト雖モ靜肅ヲ旨トシ喧嘩ノ所爲アル可カラス
- 一、飼育實習ハ晝夜ニ亘ルヲ以テ心身ヲ勞スルコト多キモノナレバ特ニ身体ノ健康ニ留意シ益々堅忍持久ノ精神ヲ以テ之ニ當ル可シ
- 一、場内ニアリテハ所定場所以外ニ於テ飲食スヘカラス
- 一、許可ナクシテ外來人ヲ場内ニ誘ヒ入ル可カラス

一、本場ノ物品ハ管理者ノ許可ヲ得ルニ非ラサレハ之ヲ使用シ又ハ場外ニ持出スコトヲ得ス

一、物品ハ鄭重ニ之ヲ取扱ヒ毀損若クハ紛失シタル時ハ直チニ届出可シ但シ故意又ハ怠慢ニ因ルト認ムルモノハ賠償セシムルコトアル可シ

第四條 總代並ニ副總代各一名ヲ置キ總代ハ生徒ヲ代表シ副總代ハ總代ヲ補佐シ總代事故アルトキハ之ヲ代理ス

第五條 總代及副總代ハ生徒之ヲ選舉シ場長之ヲ任命ス任期ハ六ヶ月間トス

第六條 生徒ハ袴及製帽ヲ着用スヘシ

第七條 實習中ハ所定ノ實習服ヲ着用スヘシ

第八條 缺席セムトスル場合ハ其ノ事由ヲ具シ豫メ場長ノ許可ヲ受クヘシ

寄 宿 舍 規 程

第一條 本場ハ生徒タルノ本分ヲ盡シ心身ノ修養ヲ補クル爲メ寄宿舎ヲ設ク

第二條 寄宿舎ニハ舍監ヲ置キ風紀衛生炊事其ノ他ノ取締ニ任ス

第三條 生徒ハ凡テ寄宿舎ニ收容ス但シ蠶兒飼育實習期間外ニシテ場長ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限リニアラス

第四條 寄宿生ハ起床掃除食事入浴自習就寢等ハ別ニ定ムル處ノ時間ニ依リテ之ヲ勵行スヘシ

第五條 寄宿生ハ左記各號ヲ遵守スヘシ

- 一、舍内ニアリテハ常ニ靜肅ヲ旨トシ他人ノ妨トナルヘキ行爲アルヘカラス
- 一、舍内ノ清潔ヲ計リ時々寢具類ヲ日光ニ曝シ又衣服類ノ清淨ニ努ムヘシ
- 一、風紀ヲ紊シ又ハ危險ノ虞レアル物品ヲ所持スヘカラス
- 一、備付ノ器具ハ丁寧ニ取扱ヒ使用後ハ所定ノ場所ニ整頓スヘシ
- 一、外來人ヲ舍内ニ誘ヒ入ルヘカラス面會人アル時ハ舍監ノ許可ヲ得所定ノ場所ニ於テ應接ス可シ
- 一、午後六時以後ニ外出セムトスル場合ハ舍監ノ許可ヲ受クヘシ
- 一、門限ハ普通午後九時日曜祭日午後十時トス
- 一、寄宿生ハ舍監ノ指揮命令ニ從フヘシ
- 一、點檢ノ際ハ室別ニ整列シ舍監ノ點呼ニ應スヘシ
- 一、常ニ揭示ニ注意スヘシ
- 一、新聞雜誌ノ購讀ハ豫メ舍監ノ許可ヲ受クヘシ
- 一、火ノ元ニ關シテハ各自相戒ムヘシ

第六條 生徒會合セムトスル時又ハ廣告其ノ他ノ揭示ヲナサムトスル時ハ豫メ舍監ノ許可ヲ受ク可シ

第七條 臨時ニ外泊又ハ歸省セムトスル時ハ其事由ヲ具シ場長ノ許可ヲ受ク可シ

第八條 寄宿舍ニ舍長並室長ヲ置ク舍長ハ舍ヲ代表シ室長ハ室ヲ代表ス舍長及室長ハ寄宿生之ヲ選舉シ任期

ハ六ヶ月トス

第九條 炊事ハ炊事係ヲ置キ自炊ノ方法ニ依ル

第十條 炊事係リハ四名ツ、輪番之ニ當リ任期ハ一ヶ月トス

炊事係リノ任務左ノ如シ

- 一、每週献立表ノ調製
- 一、炊事需要品ノ購入
- 一、月末決算報告書ノ作製

第十一條 炊事ノ會計ハ舍監ノ監督ヲ受ケ炊事係之ヲ處理ス

二、長野縣蠶品種指定ニ關スル規程

（大正十一年四月縣令第三十八號公布
大正十一年八月縣令第六十九號第七條改正
大正十三年三月縣令第三十五號改正）

第一章 總 則

第一條 本縣ニ於ケル蠶ノ適良品種ハ本規程ニ依リ之ヲ指定ス

第二條 蠶品種ヲ指定セムトスルトキハ長野縣蠶業試驗場ニ於テ所定ノ試驗ヲ行ヒ其ノ成績ヲ蠶品種審査會ノ審査ニ付シタル上更ニ之ヲ長野縣蠶種同業組合聯合會、長野縣養蠶組合聯合會、及長野縣生

第十條 前條ノ請求ハ毎年一月末日迄ニ様式第三號請求書ニ純粹種又ハ固定種ニ在リテハ一種類毎ニ蠶種

二十八蛾交雜種ニ在リテハ其ノ基礎原蠶種並交雜種ノ蠶種各二十八蛾ヲ添付シ知事ニ請求スヘシ
前項ノ請求豫定數以上ニ達シタルトキハ調査ノ上其ノ一部ヲ次年度以降ニ繰越スコトアル可シ其
ノ場合ニ於テハ添付ノ蠶種ハ之ヲ返戻ス

四四

第十一條 前條ノ蠶種ハ長野縣蠶業試驗場ヲシテ豫備試驗ヲ行ハシメ其ノ成績ヲ蠶品種審査會ノ審査ニ付シ

第二條ノ手續ヲ爲スヤ否ヲ決定ス但シ同一年度ニ於テ春蠶三口夏秋蠶三口ヲ超エサルモノトス

第十二條 指定蠶品種ト決定シタルトキハ其ノ請求者ニ對シ補償金給與スルコトアル可シ

第十三條 本規程第十條ニ依リ知事ニ差出ス可キ請求書及蠶種ハ長野縣蠶業試驗場ヲ經由ス可シ

第四章 蠶品種審査會

第十四條 指定蠶品種ニ關シ諮問ヲ爲ス爲メ蠶品種審査會ヲ設ク

第十五條 審査會ハ委員若干名ヲ以テ組織ス

第十六條 委員ハ官公吏及蠶絲業ニ關スル學識經驗アル者ノ中ヨリ知事之ヲ命シ又ハ囑託ス

第十七條 委員ノ任期ハ官公吏ニシテ委員タル者ヲ除ク外四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第十八條 審査會ニ會長一名副會長二名ヲ置キ委員中ヨリ知事之ヲ命ス

第十九條 審査會ハ知事之ヲ招集ス

第二十條 會長ハ一切ノ會務ヲ總理シ會議ノ議長トナル副會長ハ之ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其職務ヲ代
理ス

第二十一條 審査會ニ書記若干名ヲ置キ會長之ヲ命ス

書記ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第二十二條 會長ハ閉會後遲滞ナク會議ノ顛末ヲ録シ意見ヲ答申スベシ

第二十三條 審査ニ關スル細則ハ會長之ヲ定ム

附 則

第二十四條 本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條 第十條ノ請求期日ハ大正十一年度限リ四月二十日迄トス

第二十六條 大正十一年一月二十一日告諭第一號ノ蠶品種ハ本規程ニ依リ指定シタルモノト看做ス

第二十七條 大正六年告示第九十六號原蠶種々類審査會規程ハ之ヲ廢止ス

第五條第二項ノ規程ハ大正十三年二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

絲同業組合聯合會ニ諮問シ之ヲ定ム其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同ジ

第三條 指定蠶品種名及實施期ハ之ヲ告示ス其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第二章 指定蠶品種印押捺手續

第四條 指定蠶品種タル蠶種ニハ希望ニ依リ蠶業取締所支所ニ於テ様式第一號長野縣指定蠶品種印ヲ押捺ス前項ノ蠶種製造ニ供ス可キ原蠶種ニハ希望ニヨリ蠶業取締所ノ支所ニ於テ様式第二號長野縣指定蠶種製造用印ヲ押捺ス

第五條 第四條第一項ノ指定蠶品種印ヲ押捺スヘキ蠶種ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

- 一、長野縣立原蠶種製造所ヨリ配付ヲ受ケタル原蠶種又ハ其ノ複製第一代目ノ原蠶種ヲ以テ製造セル普通蠶種
- 二、府縣立原蠶種製造所ヨリ配付ヲ受ケタル原蠶種又ハ其ノ複製第一代目ノ原蠶種ヲ以テ製造セル普通蠶種ニシテ農商務省蠶業試驗場配付系統ニ屬スル本縣指定蠶品種ト同一品種ノモノ

本縣ニ於テ製造シタル蠶種ニシテ特ニ必要アリト認ムルトキハ前項各號ノ一ニ該當セサル場合ト雖第四條第一項ノ指定蠶品種印ヲ押捺スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ蠶品種審査會ノ決議ヲ經タル上更ニ之ヲ長野縣蠶種同業組合聯合會、長野縣養蠶組合聯合會及長野縣生絲同業組合聯合會ニ諮問シテ之ヲ定ム

第六條 本縣蠶種製造者ニシテ前條ニ該當スル蠶種又ハ其ノ原蠶種ニ第四條ノ捺印ヲ希望セサルモノハ蠶絲業法ニ依ル検査請求書ニ其ノ旨ヲ付記スヘシ前項ノ記載ナキモノハ其ノ希望アルモノト看做ス

前項ノ規定ニ依リ捺印ヲ受サル蠶種ニシテ必要ヲ生シタルトキハ更ニ所轄蠶業取締支所ニツキ其捺印ヲ請求スルコトヲ得

第七條 本縣以外ノ地ニ於テ生産セル蠶種ニシテ第五條第一項ニ該當スルモノ又ハ其ノ原蠶種ニ付テハ第四條ノ捺印ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ其ノ蠶種ニ第五條各項該當有無ニ關スル其ノ府縣蠶業取締所ハ其ノ支所ノ證明書ヲ添付シ最寄蠶業取締所支所ニ請求スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ蠶種製造場所ヲ管轄スル道府縣蠶業取締所又ハ其ノ支所ニ於テ第五條第一項各號ノ一ニ該當スルモノ又ハ其ノ原蠶種タルコトヲ證明スルニ足ル印章ヲ押捺シタルモノハ第四條ニ依リ捺印シタルモノト看做ス

第八條 前條ノ請求アリタルトキハ蠶業取締所支所ニ於テ其ノ證明書ヲ調査シ適當ト認メタル場合ハ第四條所定ノ印ヲ押捺スヘシ

第三章 蠶品種試驗請求手續

第九條 本縣蠶種製造者ハ其ノ育成シタル蠶品種ヲ本縣指定品種トシテ採用ヲ請求スルコトヲ得

第十條 前條ノ請求ハ毎年一月末日迄ニ様式第三號請求書ニ純粹種又ハ固定種ニ在リテハ一種類毎ニ蠶種

二十八蛾交雜種ニ在リテハ其ノ基礎原蠶種並交雜種ノ蠶種各二十八蛾ヲ添付シ知事ニ請求スヘシ
前項ノ請求豫定數以上ニ達シタルトキハ調査ノ上其ノ一部ヲ次年度以降ニ繰越スコトアル可シ其
ノ場合ニ於テハ添付ノ蠶種ハ之ヲ返戻ス

第十一條 前條ノ蠶種ハ長野縣蠶業試驗場ヲシテ豫備試驗ヲ行ハシメ其ノ成績ヲ蠶品種審査會ノ審査ニ付シ

第二條ノ手續ヲ爲スヤ否ヲ決定ス但シ同一年度ニ於テ春蠶三口夏秋蠶三口ヲ超エサルモノトス

第十二條 指定蠶品種ト決定シタルトキハ其ノ請求者ニ對シ補償金給與スルコトアル可シ

第十三條 本規程第十條ニ依リ知事ニ差出ス可キ請求書及蠶種ハ長野縣蠶業試驗場ヲ經由ス可シ

第四章 蠶品種審査會

第十四條 指定蠶品種ニ關シ諮問ヲ爲ス爲メ蠶品種審査會ヲ設ク

第十五條 審査會ハ委員若干名ヲ以テ組織ス

第十六條 委員ハ官公吏及蠶絲業ニ關スル學識經驗アル者ノ中ヨリ知事之ヲ命シ又ハ囑託ス

第十七條 委員ノ任期ハ官公吏ニシテ委員タル者ヲ除ク外四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第十八條 審査會ニ會長一名副會長二名ヲ置キ委員中ヨリ知事之ヲ命ス

第十九條 審査會ハ知事之ヲ招集ス

第二十條 會長ハ一切ノ會務ヲ總理シ會議ノ議長トナル副會長ハ之ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其職務ヲ代
理ス

第二十一條 審査會ニ書記若干名ヲ置キ會長之ヲ命ス

書記ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十二條 會長ハ閉會後遲滯ナク會議ノ顛末ヲ録シ意見ヲ答申スベシ

第二十三條 審査ニ關スル細則ハ會長之ヲ定ム

附 則

第二十四條 本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條 第十條ノ請求期日ハ大正十一年度限リ四月二十日迄トス

第二十六條 大正十一年一月二十一日告諭第一號ノ蠶品種ハ本規程ニ依リ指定シタルモノト看做ス

第二十七條 大正六年告示第九十六號原蠶種々類審査會規程ハ之ヲ廢止ス

第五條第二項ノ規程ハ大正十三年二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

樣式第一號



橢圓形
外圓 一寸二分
長徑 一寸二分
外圓 一寸
短徑 一寸
肉色 青

樣式第二號



橢圓形
外圓 一寸二分
長形 一寸二分
外圓 一寸
短徑 一寸
肉色 青

樣式第三號

蠶品種指定請求書

- 一、化 性
 - 二、品種及系統
 - 三、飼育ノ時期
 - 四、品種ノ特性
 - 五、品種育成ノ沿革並方法
 - 六、其他參考トナルヘキ事項
- 右御指定相成度所定ノ蠶種相添ヘ此段及請求候也

年 月 日
知 事 宛

住 所
氏 名

ホ、蠶品種審査會旅費支給規程

(大正十一年八月
告示第四四五號)

第一條 委員職務ノ爲旅行スルトキハ左表ニ依リ旅費ヲ支給ス

鐵道賃(一哩ニ付)	車馬賃(一里ニ付)	日當(一日ニ付)	宿泊(一夜ニ付)
五錢	七十錢	三圓	五圓

官公吏以外ノ委員ニシテ其ノ住所地ト執務地ト同一ノ場合ハ執務日數ニ應シ前項ノ日當ヲ支給ス
旅費ヲ支給スヘキ哩數、里數ハ委員ノ住所ヲ有スル市町村ノ元標迄順路ニ依リ一旅行毎ニ其ノ往復
ヲ合算ス、但シ一位未滿ノ端數ハ之ヲ切捨トス

第二條 官公吏ニシテ委員タルモノ、旅費ハ前條ノ規定ニ拘ラス本官職相當ノ旅費ヲ支給ス
官公吏ニシテ書記タルモノ、旅費亦同シ

大正十四年三月二十五日 印刷
大正十四年三月三十日 發行

發行所

長野縣蠶業試驗場

電話 七八六番

印刷所

旭印刷株式會社

電話 八八四番

長野市鶴賀千歲町一四一八番地

1421

3020

終